

2024年3月4日

メドトロニック、国内初、橈骨動脈穿刺アプローチ専用設計されたガイディングカテーテル「Rist™ ラディアルアクセス ガイディングカテーテル」の販売を開始

日本メドトロニック株式会社（本社：東京都港区）は、脳血管治療における橈骨（とうこつ）動脈穿刺アプローチ専用のガイディングカテーテル「Rist™（リスト）ラディアルアクセス ガイディングカテーテル」（以下、Rist）の販売を3月1日より開始した。

脳血管疾患は脳卒中とも呼ばれ、血栓などにより脳の血管が詰まり血流が途絶えてしまう虚血性脳血管疾患（脳梗塞）と血管が破れて出血する出血性脳血管疾患（脳出血、くも膜下出血）に大別される。厚生労働省の「令和2年（2020）患者調査」によると、脳血管疾患を有する患者数は日本国内に174万人いるとされ2021年の死因の第4位となっている。この脳血管疾患は、意識障害、運動障害知覚麻痺などの症状を引き起こし、代表的な既存療法には開頭外科手術と血管内治療（カテーテル治療）がある。

血管内治療は、カテーテルを挿入し標的血管まで送達させ、カテーテルを介して治療するため外科的手術と比較して患者の負担が小さいこと、手術時間が短いことが利点である。血管内治療は、太ももの大腿動脈からカテーテルを挿入する方法（以下、TFA）と、手首の橈骨動脈からカテーテルを挿入する方法（以下、TRA）の代表的な2つの手段がある。

橈骨動脈から穿刺するTRAは、止血が容易であり、術直後の行動に制限がない点で有用であるとされている。橈骨動脈は浅層にあり、骨を挟むことで圧迫止血がしやすく、血腫ができるスペースが少ないため、止血処置は手首に止血バンドを巻くのみで良く、患者は車椅子に乗って帰室でき早期歩行も可能となる。ベッド上の安静時の体位に制限が無いためにすぐに帰室できることで、手術室での時間のロスも少なく、介助負担も小さいことが利点。TRAは穿刺部の出血性合併症リスクの低減、手術における患者の負担低減、入院日数の短縮などに大きく寄与することが期待されている。